

カンボジア通信

カンボジア教育支援基金 (KEAF-Japan) 会報

2016年 3月 78号



〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5

JICA地球ひろば気付

カンボジア教育支援基金事務局

info@keaf-japan.com

http://keaf-japan.com



カンボジアとベトナム

「歴史と今」を訪ねる シニアの旅

出会いと発見—ハイライトは

子どもたちのキラキラした瞳でした

カンボジア教育支援基金 (KEAF) の呼びかけで 20 人のシニアが 2 月 16 日から 23 日までの足かけ 8 日間、元気に楽しくカンボジアとベトナムを旅しました。KEAF が支援するカンボジア・プレイヴェン州ブレアスダイのプロムプロム高校訪問では KEAF 奨学生ら多数の生徒たちや校長先生らの歓迎を受けました。ツアー参加者のほとんどはカンボジアの子どもたちに会うのは初めてです。子どもたちの「キラキラした瞳」に強い印象を受けたと、一様に語っていました。

神秘的かつ荘厳なアンコールワットやアンコールトムの遺跡群、巨大なトンレサップ湖の水上生活の世界、東南アジアの歴史を育んできた雄大なメコン川、超大国・米国を倒した小柄なベトナム人のクチ地下基地とエネルギーあふれるホーチミンの町……。いろんな出会いと発見のある旅でした。

◇ツアー参加者の感想文 2~7 頁をご覧ください。

(今号に収容できなかった分は次号に掲載します)

◇KEAF「サッカー教室」を支援する

町興しサッカー大会が開かれました。10 頁をご覧ください。

止まらなかった握手

手島 達夫

カンボジアの遺跡群アンコールトム、アンコールワットを見てプノンペンに入り、翌日我々を乗せたバスは KEAF 支援の中学校に着いた。きれいな並木道の 200 ほど先に先生たちが 3 人ほど待っていた。KEAF の皆さんと一緒に近づき金子会長さん他今まで支援された皆さんが談笑を始め歓迎の挨拶を交わしていました。

その時ふと校庭のほうを見ると、中高生の皆さんが 2 列に並び幅 10 ほど開けて合計 200 人ほどの歓迎の道を作っていました。KEAF の皆さんの今までのご支援の力がこんなすごい歓迎の道を作って歓待されることを

見て思わず胸が熱くなり、涙が湧き出ます。

生徒たちはみな濃紺の女子は巻



つ、男子はズボンに白いシャツで清潔あふれる姿です。カンボジア独特の顔の前で手を合わすあの挨拶をしながら、拍手で歓迎され拍手で応え、思わず手を握り、その時素晴らしい笑顔を見せてくれました。

女子生徒も男子生徒もやさしい顔、感動するやさしい笑顔です。ちょっと恥ずかしそうに手を出してくれて思わず握手し、もう止まらない握手となりました。背も高く、小顔で、素朴で素晴らしい立ち姿で、力まず立っている姿はとても頼もしい中高生でした。

40 年前に国民の 3 分の 1 が惨殺された歴史を抱えていながら、ここの若者たちがいて、この国の未来はきっと素晴らしい歴史が作られそうな印象を与えてくれる生徒でした。

先生たちの努力で優秀な生徒が生まれ、高校大学と進むこともできて、KEAF の奨学金を使い、卒業してこの学校の先生になりたい学生がいることも知りました。やさしい笑みを蓄えている先生の言葉に感動しました。もしこの状況を日本のテレビが取材し放映されたら、きっと多くの方の賛同と称賛が集まることでしょう。

われら定年退職者で年金生活者だけでは援助を続けられません。友人にも伝え、もっと多くの人に伝え、見える支援を継続したいものです。

日赤の募金に参加しても支援内容は見えません。この KEAF の支援ならば、誰にも見え、支援の姿を伝えることができます。ぜひとも TV で取り上げてもらいたいとせつに思います。

ベトナムの戦争記念館の写真も衝撃でした。クチの地下トンネルの恐ろしさも衝撃でしたが、やはり KEAF の学校支援ははるかに大きな衝撃を頂きました。金子会長、皆様ありがとうございました。

キラキラした子どもたちの目

佐藤 三鈴

私は 10 年くらい前にアンコールワットとベトナムの旅をしたことがあります。その時若い男性現地ガイドに“今後ベトナムがどんな風にな変わって行くか興味があるので 10 年後にもう一度来ますね”と言って別れた事を思い出し、今回ご案内を聞いてあの約束を果たすには今しかないと考え参加させていただきました。

10 年後のベトナムは相変わらず活気に満ちて道路も随分整備され、バイク群には湧き上がる様な生活力を感じ圧倒されました。また中国が建設したと思われるきらびやかなビルが多くみられ、この 10 年間の世界の経済力の変化を感じました。

余談ですが 50 年位前、旧東京銀行の輸出課で“輸



出申告書”の認証担当をしていた時、ホンダ（その頃は本田技研と言っていた）のオート

バイの輸出に関わったことを懐かしく思い出し、ホンダのオートバイが今も圧倒的人気を得ていることを目にして日本の技術力の高さを誇らしく思いました。

アンコールワットは前回と比べ観光客が大幅に増え、第三回廊に上がる階段は1時間近く待たされたのには驚きました。朝日が昇り建物のシルエットが浮き上がる神々しい瞬間（右の写真）は何度見ても手を合せたくなりました。アンコールトムもまた圧巻でした。しかし今回の旅で私の最大のハイライトは、KEAF-JAPAN が支援されている学校を訪ねたとき、子供たちがキラキラした目をして笑顔で迎えてくれるというサプライズがあった事でした。私が久しく忘れていたあのキラキラした目を70年前自分もあのような純粋な目をしていたのであろうか。

私は満州から1946年に引き上げてきて入学した広島の小学校は2部制で、青空学級と言って校庭にある大きな木の下で勉強したことを思い出しました。

前回の旅で現地ガイドの青年がポルポト政権下で夜寝る前に家の周りに地雷を埋め、朝起きたらそれを回収していたと語りました。彼はお金を貯めて学校を作るのだと夢を語っていましたが、夢は実現できたのだろうか、それともまだその途上なのであろうか。やはり教育の重要さを痛感致しました。

今回 KEAF-JAPAN の方々が長年築き上げた現地の人との絆を垣間見て、私にも何か出来ることは無いのかとの思いが強くなりました。まずは今回感じた事、そして手弁当で子供たちに支援が続けられている事を家族や友人に伝えたいと思います。この支援が途絶えることなく子供たちの希望の光となってこれからも続きます様に心から祈っています。

今回のツアーは人生経験豊かな多くの方々にお会いすることが出来て大変充実した8日間でした。本当にありがとうございました。

未来を感じさせる子供たち

金谷 融
悦子

最後の夫婦での海外旅行が1991年1月のフィンランドへのオーロラ観賞で、以来、様々な事情、特に愛

犬達に寂しい思いをさせたくないという点で一致した気持ちから、夫婦での長期間の旅行は控えていました。しかし、時が流れて、介護していた親達が去り、更に

は愛犬達も去って夫婦二人だけとなり、留守番の問題はあるものの、海外旅行に行ける状況とはなりましたが、別々に旅行することはあっても一緒に海外旅行には踏み出せずにいました。今回、岡宮さんにお声をかけて頂いたことが、私どもの背中を押して一步を踏み出す契機となり、実に17年ぶりに夫婦での海外旅行を楽しむ事ができました。しかも素晴らしく充実した内容のツアーで。今は参加して良かったと心から感じています。

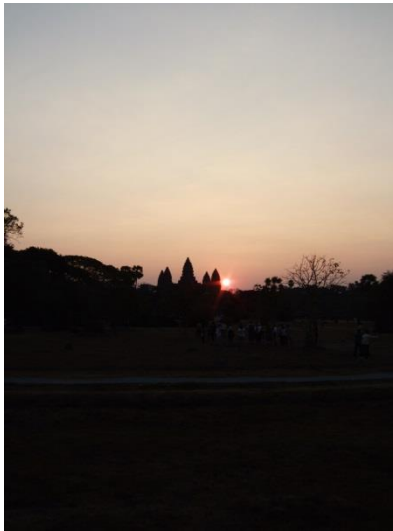
ホテルや食事のグレード、それに訪問地の選択、或は添乗員やガイドの方々の質はどれも高いレベルにあったと感じています。加えて、今回のツアーの特筆すべき点は、様々な分野で高い知識や経験をお持ちの方がツアーに多数参加され、多岐に亘る詳細なお話しをお聞き出来たこと、そして、輝く瞳、生命をそして未来を感じさせてくれる子供たちに出会

えたことにあったと思います。街（てら）い無く向けられる笑顔は得難いとあらためて感じ、この眩しい眼差しの一助となった KEAF の皆様の活動に頭の下がる思いでした。

以前は、ユネスコや日本赤十字、それに献血といった寄付行為は行っていましたが、種々の理由で取り止めてしまい、近年は災害時の単発的な寄付のみを行ってきました。今回のツアーを通じて、新たに些少の貢献ができる機会を頂けたような気がしています。高望みすることなく、多くの素晴らしい知己を得て、恵まれた老後を過ごしていると漠然と感じている今日この頃でしたが、まだできることが有ると感じられたのも誠に有難い事と存じます。

今回の旅行では素晴らしい8日間を過ごさせて頂きました。アンコールワットの第三回廊（上の写真は第三回廊の釈迦像）に吹く風や夕陽を前にしての堀端での大伸身も実に気持ちの良いものでした。岡宮さん、そして KEAF の皆様にこの場を借りて御礼申し上げたいと存じます。

有難うございました



教育こそ格差是正の第一歩

隈部紀生

カンボジアに入って久しぶりに「二部授業」という言葉を聞いた。まだ午前、午後の二部制になっている学校が多いという。教科書もまだ全学校には行き渡らず、夜家に帰って勉強しようにも、まだ電気が来ていないところも多いという。それでも訪問したプレイヴェン州の拠点校の高等学校では生徒たちが10キロ～20キロも離れたところから自転車に乗って通ってくるという。決して多額とは言えない奨学金をもらっている生徒たちが両手を合わせたあいさつで私たちを迎えてくれた(右の写真は



プロモプロム高校奨学生と教員室で記念撮影)。校舎の一部では、さらに上級の学校を目指して国の試験を受ける生徒たちが、昼の休み時間に補習事業を受けていた。

この学校に行くには去年まではメコン川をフェリーボートで行ったというが、今は日本の援助でできた橋を渡って行けるようになった。ベトナムまで続く国道1号線は今拡張、舗装工事が進められているがまだ片側一車線のほこりだらけの道が多く、車の渋滞がひどかった。プノンペン市内には立派なビルも多いし、国内各地で携帯電話専用のアンテナも目についた。シェムリアップで古い市場に行ったとき、店番をしながらスマートフォンを操る若い女性もいた。長い戦争と混乱の状態からやっと平和の時代を迎えて経済成長が始まったようだが、まだ成長は地域による差が大きい。

こんな環境の中で、カンボジアの生徒たちは向学心が旺盛で KEAF の奨学金を受けた学生の中には、プノンペン大学を学科の首席で卒業した学生もいると聞いた。今学んでいる生徒に「将来何になりたいか」と聞くと「学校の先生」という生徒が多いのに驚いた。実際卒業生が出身校に戻って先生をしている例があるそうだ。教育支援が直接教育に役立っている事例をみた。その反面せっかく奨学生になっても家の都合で働かねばならず、途中で学業

を断念する生徒もいるという。

このところ世界各国で人々の間の不平等、格差の拡大が大きな問題になっている。アメリカのような先進国でもよりよい教育のために必要な教育費が高いことが問題になっているが、カンボジアのようなまだ貧しい発展途上国では、もっと基礎的な教育の充実のために今後相当な投資が必要であることは間違いない。直接にはその国の政府の責任であるにしても、貧しい国の政府に一気に教育費の膨大な増加は望めないと思われる。

グローバル時代と言われて久しいが、都合のよい時にだけそれを言うのでは意味がない。お互いにできるかぎり助け合ってこそ真のグローバル時代だろう。教育は不平等、格差の拡大を是正する有力な第一歩だと言われる。

グローバル時代と言われて久しいが、都合のよい時にだけそれを言うのでは意味がない。お互いにできるかぎり助け合ってこそ真のグローバル時代だろう。教育は不平等、格差の拡大を是正する有力な第一歩だと言われる。

KEAF の活動が始って9年目になるというが、最近では円安などで奨学金やほかの活動を縮小せざるを得ないという。終戦直後の混乱の中で二部授業や外国の支援物資による給食で育った私たち世代としては、できるかぎり世代の義務を果たさねばなるまい。

楽しい時間は過ぎるのが早い

増山栄子

山田さんからお誘い頂きました。このツアーに何の

知識も無いまま参加させて頂いた事に、我ながら余りの恥知らずに呆れて居ります。現地に入りまず初日、朝日鑑賞から始まり、たどたどしく又、ユーモラスな現地ガイドさんの説明を聴きながらすばらしく雄大な遺跡、実物大を目の当たりに鑑賞出来た時の喜びと感動は言葉では表現出来ませんでした。

アンコールトムの遺跡群観光、

アッという間に時間が過ぎ、アンコールワットでは、第三回廊を優先し階段を昇り見学することになりました。私は半信半疑でしたが、挑戦し昇り切ることが出来、ホット胸を撫で降ろし一息！トンレサップ湖、東南アジア最大の湖。水上生活で人々の暮らしはどのような状態なのか一寸気になりつつ(上の写真はトンレサップ湖の水上学校) この風景を後にし次の場所へと・・・



いよいよブノンペン入り・・・今回、最大のイベントの支援活動現場へと進み、到着すると、直ぐに校庭に子供達が整列し出迎えてくれました。はにかみながら微笑みを純粋な瞳で一人ひとり可愛らしい仕種、この光景に初対面、初体験の私は、涙腺が緩み感激し、胸が熱くなりました。短い時間でしたが・・・色々とお持て成しを受けながら和やかな一時を過ごさせて頂く事が出来ました。支援活動で御活躍されて居る方々の偉大さに愕然と致しました。そしてここともお別れ・・・そうこうして行く内に、日程表の行程も終盤が近くなり、ホーチミンでは、戦争博物館等々の見学、タイソン島での散策、クチの地下トンネルでは、戦闘作戦工夫等の遺跡見学し市内へ戻り、全ての行程を終え、現地とのお別れの時が刻々・・・楽しい時間の過ぎるのは速いでーす！！

ハードルの高い観光旅行でした。皆様方のお元気に行動されて居るお姿、とっても素敵でした！！この旅行のタイトル、8日間シニアツアーの言葉はカットして下さいね・・・！！支援活動の役員、会員の皆様様、大変、お疲れ様でした。どうぞお体御自愛くださいネ。短い間でしたが色々とお世話になりました。本当にありがとうございました。

英語で話しかける生徒も

越智直樹

カンボジア訪問は今回で2度目でしたが、本ツアーの参加にあたり期待していたことの 하나가、かねてからわずかながら寄付に協力していた現地支援学校の生徒達に会うことでした。

ツアーの第3日目に KEAF が支援するプロモルプロム高校を訪問した際の経験は忘れがたいものです。途中交通渋滞の為到着が1時間ほど遅れたはずですが、それにもかかわらず、ポーン校長先生はじめ生徒たちは強い日差しの中校庭で待ち続けて、我々を歓迎してくれました。訪れた学校は、私が想像していたよりはるかに規模が大きいにまず驚かされました。学生数は約 1300 人とのことで、広大な敷地内に平屋ながら校舎が何棟も建っていました。KEAF より奨学金を受けている高校生を紹介されましたが、いきいきとした表情で



みんなの笑顔がとても印象的でした。聞けば皆さん 10～20 キロをかけて通学しているとのことで、中には校舎の近くの粗末な下宿屋に泊まって勉強している子もいるそうで驚きました。帰りがけのこと

いがけなく自転車に乗った女学生が私達に英語で話しかけてきました。並んで歩きながら自転車のかごの中を見せてもらおうと、何冊かのノートがあり一冊は英語の学習帳でした。一生懸命英語会話の練習をしようとする学生の気持ちが伝わってきました。

KEAF では成績優秀な高校生に、年間 \$ 50 の奨学金支援を行っています。カンボジアでは中学まで義務教育、高校は義務教育ではありませんが、公立なので授業料は無料、教科書も建前は無償配布です。KEAF の奨学金はノート、ボールペンなど学用品、あるいは補習をしてくれる先生への謝礼などに使われているとのことです。

カンボジアの学校制度はフランス式で、高校卒業および大学入学の資格は国家の統一試験をパスしなければなりません。田舎の学校では教科書さえ十分に配られず、あらゆる面で教育環境が劣悪なので、この試験をパスするのは容易ではなく、英数国など主要科目の補習が広く行われていて、事実上の受験塾および先生のアルバイトになっているとのこと。KEAF の支援対象校は現在では 15 校に及ぶとのことですが、KEAF の教科書支援が始ってから、統一試験合格率がどんどん上がってきたそうです。

金子会長の紹介文によると内戦が収まった 1993 年頃この地方には学校がひとつも残っていなかったそうです。それを考えると現地の校長先生はじめ学校関係者も学校の復興に大変な苦勞をされたことと思いますが、KEAF の支援もずいぶん大きな力



になったのだと思います。今回は、これらの学校に KEAF 支援者の皆様の善意が届いていることを確信させる学校訪問でした。まだまだ貧しい家庭の子供達が一生懸命勉強している姿には勇気づけられる思いを持ったのは私だけではなかったと思います。ひとりでも

多くのカンボジアの子供達がより高い教育を受けられるよう、心ある日本の方々の支援が KEAF に寄せられることを願う次第です。

学校行くのは当たり前でない世界

根本 歩 (日通旅行添乗員)

僭越ながら私も感想のべさせて頂きます。アンコール遺跡は近年、色々なインターネットのサイトが集計した結果多くのサイトで世界人気観光都市ランキングベスト5位以内に入っている程、世界中で人気観光地となっております。高級リゾートホテルが立ち並ぶ優雅なホテルライフから神秘的なアンコールの森から見つかったアンコール遺跡群の観光、優しいクメール人の笑顔。物価の安さからくるショッピングの醍醐味もあり、見所が多く人気観光地というのも納得です。何度訪れてもアンコ

ール遺跡群の雄大さ繊細な彫刻、クメール時代の華やかさを考えると確かに強力な力を持った王朝がここにあったと思わせてくれます。炎天下の中遺跡観光で階段も多く皆様の体調を心配致しましたが、本当に旅慣れた皆様でいつでも明るくアンコール遺跡群を無事見学されて安堵しました。

トンレサップ湖のベトナム人の水上生活の様子をご覧いただきました。シュムリアップでも色々な国からの支援で遺跡が発掘、修復され遺跡の前には修復を支援した国や会社紹介看板を目にすることができます。支援でできた水上学校がいくつかあり、やはり観光資源も世界中から支えられていることが解ります。

プノンペンの学校を訪問させて頂きました。何度となく入国している国ですが、学校訪問は未知の世界です。金子会長を始めとし、事務局の方に今日は我々に任せて！と仰って頂き、ここでは添乗員としての仕事を半分放棄して通常観光として訪れる事は皆無である経験をさせて頂きました。

プノンペンから車で往路は3時間強、工事で渋滞もありましたが、それでも2015年4月開通となったばかりのメコン河に架かるつばさ橋ができて村まで行く時間がぐっと短縮されたとのことで、橋ができるまでの事務局の方々の村までのアクセスの大変さにつくづく敬意をはらいと思いました。

学校に到着すると10:30になっており、カンボジアでは午前の部が終了し帰宅する時間でしたが我々の到着を待っていており、生徒が道を作って拍手で出迎えてくれていました。私は熊本の田舎の出身ですが、屈託のない笑顔と純粋なキラキラした瞳は私も中学生の頃芸能人が学校に訪れわくわくしていた事を思い出しました。しかし、お客様はカンボジアの人気スターではありません。学校作りを支援してくださっている日本人です。もし、私の時代、学

校支援してくれている方がお見えになったと先生に言われても、あんなにキラキラした笑顔ではお出迎えてできなかったでしょう。偉い人が来たんだな、帰るのが遅くなっちゃうなとさえ思ってしまうかもしれません。

しかし、年頃の少女少女達にもかわらず心から歓迎している事がすぐにわかりました。やはりKEAFの長年の支援の信頼関係と、なんととっても

教育の大切さ、生活においての学校の重要さ、そして、学校に通う事はあたりまえではない特別ということが彼らは身をもってわかっているんだと思いました。教科書すら3人に1冊で満足する程まだまだ教材を手に入れるのが難しい地方の村です。鉛筆、ペンすらもです。日本ではありえない世界です。

カンボジアの平均年齢を調べてみると、なんと2015年調

べで約25歳との事です(日本は約45歳)。約40年前のポルポト政権の大虐殺の影響とのことですが、とにかく若い人が多い国です。街を見てもあまり老人を見ません。そんな国ですから祖父祖母がいない家庭がほとんどだそうです。私は同居で育った事もあり、祖父祖母と生活の知恵を始めとして戦争の話や生きていくコツのようなものまでたくさん話をしてきました。そこで道徳のようなものを学んだ気がします。せめて学校という学びの場所で色々な教育を受けてこれからのカンボジアの国を作っていく

ほしいと願います。カンボジア人はお金さえあればベトナムの医者に行く、カンボジアの医者より信頼できると現地ガイドが仰っていました。やはりこの問題も教育を受ける子供達にかかっています。

ベトナム戦争の戦争証跡記念館やクチの地下通路を見学し、タイソン島のジャングルクルーズをお楽しみ頂きました。事務局の方々

の段取りや細かいお気づかい、ご参加者様のチームワークや協力の賜物で無事8日間のツアー終了となりました。私としては1つの添乗で学ぶ事は様々ですが、今回の添乗では学校を訪問して学校支援の大切さを感じたと同時に支援の難しさ大変さを伺い、長年続けてこられたKEAFの皆様の実績に改めて敬意をはらうと共に、生半可な事では足を踏み入れられないと懸念する瞬間でもありました。しかし、最後の食事会でそれぞれの身の丈にあった支援でいいのだと伺い、あの子供たちの笑顔の為に私もまずは鉛筆1本からと思います。貴重な体験ありがとうございました。





・アンコールワット第三回廊聖所の釈迦像



・ホーチミン市のカトリック大聖堂

はずんだ会話、具体的提案も

参加者は人生経験豊富な専門家

山田伸代 KEAF)

主催者側の一員としても一個人参加者としても、思い出に残る充実した旅でした。まず出発前に金子会長よりカンボジアとベトナムの歴史的背景のまとめと留意点を旅の葉として頂き、心の準備を持って旅に臨むことができました。初めての人にとっても何回も訪問された人にとってもゆとりのある安心できる旅となりました。ツアー参加者が、各方面の専門家（報道・学問・ビジネス・他）で世界を研究され今を感じてこられた方々、それを支える魅力的な奥様達、そして個性豊かな個人で構成されていたことは何よりも印象的でした。旅の各場面で大いに会話がはずみ楽しいものとなりました。食事の度にアルコールを注文する挙手が多かったのも、精力的に胡椒やコーヒーの買い物に突進したのも楽しかったです。

4日目に KEAF 支援のプロモプロム校を訪問した際、これまでの KEAF の支援・学校側の受入・子供達の感謝の連帯が目に見える形で参加者に伝わったことは有意義であったと思います。参加者の1人は日本から英語の本を1箱持参下さりそのボランティア精神に敬意を表します。KEAF が長年カンボジアでお世話になっているソワンさんを学校訪問とプノンペンのガイドとして紹介することができたことも力強くて良かったと思います。



多くの参加者から KEAF の支援状況についてツアーの中で熱く質問を受けました。いろいろなアイデアや具体的なご提案を頂きました。ありがたく今後の参考にさせて頂きたいと思います。

最後にメコンデルタの今と東南アジアの中の日本を肌で感じる事ができたことは私の中で強いインパクトとなり勇気づけられました。人生経験豊富な参加者の皆様に出会えた事は大きな宝物を得た気持ちになりました。お世話になりありがとうございます。今後ともネットワークが繋がるよう念じています。

・写真はベトナム戦争で米軍じゅうたん爆撃を
生き抜いたゲリラの地下基地入口

ありがとうございました (2015年12月1日～2016年2月29日)

年会費、寄付金、奨学金を振り込みくださった方々に心からお礼申し上げます (敬称略させていただきます)

(京都) (東京) (東京) (東京) (神奈川) (神奈川)
 (千葉) (神奈川) (埼玉) (群馬) (東京) (東京) (大阪)
 (神奈川) (神奈川) (東京) (兵庫) (東京) (神奈川)
 (東京) (東京) (神奈川) (神奈川) (神奈川) (東京)
 (千葉) (神奈川) (東京) (神奈川) (東京) (東京)
 (東京) (東京) (東京) (千葉) (埼玉) (神奈川)
 (東京) (宮崎) (東京) (東京) (千葉)
 (京都) (神奈川)

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています

※写真つき奨学生紹介の8、9頁は個人情報保護のため省略

◇物品支援ありがとうございます ▼ (東京) : 新品デジカメ1台、Tシャツ (新品含む)70着 ▼

(埼玉) : 24色クレヨン12本入り20ケース、3色鉛筆12本入り20ケース、消しゴム130グラム(約15-20個)6袋。

KEAF「サッカー教室」支援の

カンボジア・チャリティ・サッカー大会

千葉・芝山町のNGO2団体が開催

成田空港のそば、千葉・芝山町で活動する二つのスポーツ団体が、カンボジア教育支援基金(KEAF・JAPAN)の「サッカー教室」を支援したいと、先日(2月21日)、現地芝山町の「スポーツ広場」で地元の小中学生、父兄が参加するサッカーを楽しむチャリティ行事を実施、このありがたい申し出にわれわれも事務局から3人が現地に行き、芝山町の人々と交流し、子供たちのサッカーを観戦してきました。

「カンボジア smile チャリティ@しばやま」とうたったこのイベントは、八街(やちまた)アカデミック・スポーツクラブ(小林茂代表理事)と成田臨空スポーツ文化推進ネットワーク(通称 キックオフ成田、柿原淳男理事長)が主催し、芝山町と同町の教育委員会、サッカー協会、商工会など、ほとんど町ぐるみの協力態勢で初めて実現しました。カンボジアでの「サッカー教室」を指導していただいている群馬県立青翠高校の小林俊文先生も群馬大学に留学中のカンボジアからの学生ラタナーさん、ダーラー君を連れて駆けつけてくれました。

前日はかなりの降雨でしたが、朝から陽も差してまずまずのサッカー日和。会場は元々、芝山中学校があったところですが、上空はひっきりなしに飛来する旅客、貨物の大型機の騒音などで近くに移転して空き地になっていたところ。芝山町が地域創生事業でかつての校庭に天然芝を

植え、多目的広場としてのさまざまな利用方法を検討していたところ、たまたまKEAF「サッカー教室」の資金上の苦境が伝わってこのイベントが実現しました。

午前9時の開会には、小学生を中心に色鮮やかなサッカー着を着たこどもたち60人、父兄や関係者100人ほどが集まり、フランクフルト、おしるこ、焼き芋、わたあめ、お菓子のつかみ取り、虹染めのワークショップ、ヒーリングなどの出店も出てにぎやか。KEAFのために用意していただいた机には、主催者側でいち早くつくってくれたKEAF紹介のパネルや段ボールの「募金箱」がありました。KEAFの方でも紹介パンフレット100部やカンボジアでの「サッカー教室」の模様を集めたアルバム2冊を持参しました。サッカー着のこどもたちのなかには、アルバムを熱心に見ている子もいました。お昼の休憩1時間を挟んで午後3時まで、こどもたちはたつぷりとサッカーを楽しんだようでした。使わなくなったサッカーボールや文房具の寄付も多く、サッカーボールは100個前後、ノート、ボールペンなどさまざまな文房具の支援物資で軽トラックの荷台はいっぱいになるほどでした。

小林茂代表理事はKEAFのカンボジアでの活動に参加した経験があって、カンボジアへの理解が深く、閉会後、非公式に「これからは支援の機会があれば、継続したい。ご覧のように、年1回とはいわず、夏にも開催できる条件はあります」と感想を語ってくれました。主催側の芝山町の各団体、地域のみなさまにあらためて感謝いたします。

(池内秀樹：6月の会報79号で「特集」)